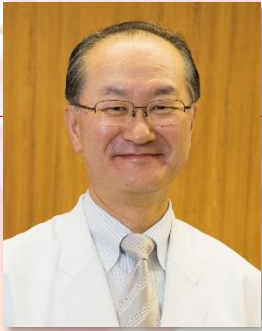


新年ご挨拶



一般財団法人大原記念財団 理事長
大原総合病院 統括院長 佐藤 勝彦

新年おめでとうございます。

昨年は新病院が開院して3年目、急性期から回復期、精神、在宅医療までの法人内医療連携ケアシステムが整い、いざと思った矢先に予期せぬ新型コロナウイルス感染症がパンデミックとなり、その対応に追われ思い通りに進まない1年でした。本年は、そんな厳しかった年が明けて、大きな夢が芽生える年になるという辛丑の年です。コロナトンネルを抜け出すのはもうすぐと希望を持って進んで行きたいと思います。とはいえ、コロナ感染症は人間社会を一気に別世界へと変えてしまったようです。人は一人では生きられません。集団生活が基本です。だから人と人との間が大事なのだと思います。連携は密な方が良いのですが、密になりすぎても不味いことが発生することは感染症の教訓です。

本年は東日本大震災・原発事故から丸10年、当財団も新生大原となり10年の節目です。新しい人と人、病診・病病の繋がり方を情報通信技術ICTを活用して新しい医療の在り方を模索していく年にしたいと思います。本年もどうかご愛顧いただきますよう、宜しくお願い申し上げます。



一般財団法人大原記念財団 院長代行 小山 善久

謹んで新春のご祝詞を申し上げます。地域の先生方や関係職員の皆様そして地域住民の皆様にはお健やかに新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

昨年は新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより、世界中に暗い影を落とし、ここ福島でも多くの感染者が発生し、未だに収束に向かってはいない状況です。本年は引き続き新型コロナウイルス感染症対策を講じながらの一般医療が大きな課題となります。

当院は新病院へ移転してから丸3年が経過し、先生方からの患者さまの紹介も増加しており、地域における当院の役割はさらに重要になっていると認識しております。まだまだ病院を取り巻く環境は厳しさを増している状況ですが、職員の安全を担保しながら目の前の課題にひとつひとつ着実に取り組み、多くの方々の期待に応えることができるよう頑張っていきます。

本年も皆様からのご指導ご鞭撻を宜しくお願い申し上げ、新型コロナウイルス感染症が撲滅されんことを祈願しつつ新年のご挨拶と致します。



一般財団法人大原記念財団 大原総合病院

副院長兼画像診断センター長
地域医療生活連携室管理者

森谷 浩史

新年あけましておめでとうございます。

2019 年末から流行し始めた新型コロナウイルス感染が世界中で猛威を振るっています。福島市においても、昨年末から市中感染の様相を帯びてきており、どこでクラスターが発生しても不思議ではない状況になっています。先生方におかれましては、感染対応に留意しつつ日常診療を維持しておられると思います。ぜひ、ご自身の健康にご留意いただければと思います。

昨年は新型ウイルスに翻弄された 1 年でした。

日常生活では生活様式の見直しを余儀なくされ、医療現場では不急の医療を先送りしなければならない状況に陥りました。当院においても、刻々と変化する状況に応じて、病院窓口の対応手順を見直し、感染防御に努めております。登録医の先生からご紹介いただく際にも、たいへんお待ちいただくことが多いと思いますが、ぜひご理解いただきたいと思っております。

先生方との交流においても新しい様式を模索しています。当初、感染リスクを減らすため、会合の機会を制限しましたが、定期的に行っていた情報交流の機会を失ったままではいけないと、2~3 の勉強会・研修会を web 開催で行いました。行って見て感じたことは、web 開催では情報の発信者と受け手とに二極化することです。やはり、演者と聴講者とが互いに顔が見える関係は貴重だったと感じています。

今年は、さまざまな新しい試みを行ってまいりますので、どうぞよろしく願いいたします。



一般財団法人大原記念財団 看護本部総看護部長兼大原医療センター看護部長 清野 伊奈美

新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましてはご健勝にて新年を迎えられたことと心よりお慶び申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症収束に向け立ち向かった年でした。行政をはじめ地域医療機関のみなさまと連携して、地域住民の健康を守るため体制構築に取り組んで参りました。医療従事者としての使命感のもと、地域の皆様の信頼にこたえられるよう、専門職のチームとして取り組んで参りました。また、多くの皆様から、支援物資や心温まるお言葉をいただき、心の糧として勤務に励むことができました。深く感謝申し上げます。

大原記念財団が新体制となり 3 年を経過いたしました。急性期の大原総合病院と回復期の大原医療センターが両輪となってそれぞれの役割を更に担えるよう、今年度は大原医療センターの規模を拡大いたします。2 つの病棟から 3 つの病棟といたします。地域包括ケアシステム構築に向け在宅医療へのサポート体制を強化し、住み慣れた地域で安心して医療と介護が受けられるよう取り組んで参ります。

今後ともどうぞご支援ご鞭撻の程よろしく願いいたします。

大原記念財団の理念 人を愛し、病を究める

私たちは、すべての患者さまとご家族のために常に一歩先行く医療を探究し、優しさを持って最善を尽くす医療を実践することにより、地域から信頼される病院を目指します。

制作 大原総合病院 総合患者支援センター
発行者 一般財団法人大原記念財団
理事長 佐藤 勝彦
電話 024(526)0371 ダイヤルイン
FAX 024(526)0935
代表 024(526)0300
住所 福島市上町 6 番 1 号

大原記念財団職員行動規範 10 カ条

私たちは、

1. 医療安全を確立し、安心と信頼を獲得します。
2. 命の尊厳を深く理解し、患者さまの権利を尊重します。
3. 優しさを持ち、気づきの医療を実践します。
4. 人間性豊かな医療人となるよう、常に自己研鑽します。
5. 新しいことへの挑戦し、質の高い医療を創造します。
6. 医療人としての誇りを持ち、如何なる時も最善を尽くします。
7. 医療情報の共有と活用を促進し、得られた情報は厳格に管理します。
8. 地域社会に支えられていることを認識し、医療連携を推進します。
9. 相互に敬意を払い、連携を密にして組織的に行動します。
10. 未来への発展のために、健全経営を目指して努力します。